

に、大がかりな事業即ち熔鐵爐及び平爐工業の如く大規模なものは滿洲に發達させた方がよきも、精密工業例へば特殊鋼の如きは内地に發達させた方が適當のやうに考へらる。

滿洲の工業の特長は識者の指導によるものであらうが、或一つの大工場を中心としてその周圍に大工場の製品又は材料の關係的小工場が衛星的に設けられてあることである。これはお互に指導鞭撻されて健全なる發達を遂げるであらうと思はる。又奉天の鐵西工業地區は實に躍進滿洲の工業の將來を暗示するものであつて、近き將來には工場デパートの大偉觀を現出するであらう。

最後に材料不足の狭き内地に於てお互に競争ひつゝあたふた精力を消耗するよりも、廣き滿洲の天地に驥足を延ばして活躍すべき時代ではなからうかと考へらる。

滿洲大會に於ける感想 根本 茂

建國以來僅かの歲月を以て、滿洲國の各種産業が飛躍的發展を遂げつつあるは視察者をして驚異の眼を瞪らしむるに足るものがある。殊に吾等重工業關係者として、同工業の異常なる發展には大いに意を強ふすると共に、關係者の努力に對し敬意を表する次第である。豊富な鐵鑛、石炭等の資源を根幹とする昭和製鋼所並に本溪湖煤鐵公司宮ノ原工場、或は撫順の油母頁岩による液體燃料工場等、大なる建設工事が一日も早く其の功を遂げて増産の實を挙げ、以て時局に對應せらるる日を待望する次第であるが、繼つて之等物資の日滿支 3 國の生産量と、其の需要を充足せしむる緊要性を想起して技術部門の責任に及ぶ時、吾人は更に新たなる覺悟を覺ゆるのである。

滿洲國に於ける各工業の躍進に伴ひ指導の技術者に不足を生じ、其の生長を阻害しつゝあるの叫びを聞くは誠に痛恨の次第であつて、恐らく滿洲國に對する認識の貧困が内地以上に本問題を深刻化せしめたるものと想像せらるるも、特に青年技術者が、此の國家的使命に向つて奮起せられむ事を切望すると共に、日滿支の 3 國を通じての之等人的資源の統制を更に高度化する事にすら思ひ及ぼす次第である。

終りに臨み滿洲大會に際して見學を許されたる諸工場と會期中に於ける會長以下役員各位の御勞苦に對し深甚の謝意を表する次第である。

以上

日本鐵鋼協會滿洲講演大會實施所感 長谷川 熊彦

滿洲に日本の學會が大會を開催する事は近年頻繁となつて來た。今年に入つて 7 月日本能率協會、8 月工業化學會、9 月日本鐵鋼協會及び日本農學會、10 月日本機械學會と連續して旅行シーズンは一杯となつて居る。日本の専門家を迎ふる事は此上ない結構な事である。即ち滿洲の現況を親しく視察し下さると共に科學的刺戟と啓發とを與へらるゝと云ふ事に於て嬉しい。然し何時の場合でも汽車輸送と旅館配當とが問題となり、現地の世話方は苦心焦慮して尙且つ豫期通りに行きかぬものである。今回も夜行寢臺車とか宿舎とかに就ては出席の方には御不自由御不満を残したる場合もあつた事と想像さるゝ。此點は委員の 1 人として恐縮の至りである。實行委員や旅館事務員は學生團體の如く一定スケジュールで全員を動かす事が最も事務的で秩序が取れるが學會諸員に對して左様にも行きかぬため多くの惱を生ずる。5 年前の大會の時と今回とを比較すると會員の参加は 2 倍半にも増加し居り他方滿洲の事情は著しく旅行者輻輳の不足を來して居るため今一層混雜するではないかと心配して居た程であつた。幸に甚しい不都合もなかつた様で聊か慰めらるゝのである。御無理かも知れぬが出席者各位には 2 週間の御不自由を止むを得ざる事とされ後日の記念思出とされ諒承されん事を御願致す次第である。恐らく此後は益々此種旅行は不自由勝となる一方で自由行動サービス豫期は至難と思はるゝ。會社重役諸氏にて滿洲に支店出張所を持たれ其事務員にサービスを命ぜらるゝ場合にては餘程手廻よくする必要があると思ふ。況や單にビュローに信頼さるゝ準備だけにては相當間違失敗を續出すると思ふ。今回の開催にて大なる不備は出席申込と共に必要金を東京本部に徴出し出席を確實にし得なかつた事と參會者に所定宿名を内地出發以前に通知し得なかつた事である。某學會では旅館室料豫約金として 5 圓を出席申込と共に徴收されて居ると聞いて居る。出席者の行動登録とか宿所其他に關し中央事務と連絡し得る如く今後は一層準備を完全にしたいものである。簡易事務にて内地開催或は外國學會は済さるゝ様に思はるゝも滿洲は左様に行なへる點が多い。

奉天の講演會に就ては心配して居つたが至極順調に進んだ事は愉快であつた。準備に就て盡力された事と設備が至極都合宜く出来て居つたためであると思ふ。

自由見學の機會を作ること 藤井 寛

日本鐵鋼協會及び滿洲冶金學會聯合滿洲大會に参加して主要なる工場設備を概観して見學しが無かつたことに就いて準備並に斡旋當局者に對し深甚なる謝意を表するものである。若しこの上意を言ふことが許されるならばこうもしたらよからうと考へる。

參加者中には見られる丈澤山の工場を見ようといふ人もあらう又 2 ヶ所でも 3 ヶ所でも緩つくり見學しようといふ人もないとは限らない。そこで工場の案内を出来る丈廣く精しく“講演大會次第”に掲載し見學に當つては例へば奉天見學の様なきは一般は此の度實際

行はれたと同趣向に多數工場を見學する。一方ニヶ所丈でも三ヶ所丈でも精しく見學したい向きの爲めにはその日一日又は日中の何れの時刻でも自由見學を許可せられる様見學工場の諒解を得置くことである。斯様にすることは見學工場の手数は著しく増すことになるが考へ様によつては見學工場としては失はれることのみでもないと思ふ。兎に角その様な冀望者は假令數は少くともそれによつて裨益せられること非常に大きく工業界と云ふ立場から言つて悦ばしい結果となるであらう。(終)